

# 診療情報管理士ってご存知ですか

独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター

企画課 診療情報管理室 秋田香奈子

久原会会長である廣田先生より久原会会員の声の投稿について、お話を頂きましたので、若輩者の私ですが携わってきた業務について振り返り、私たちの職種について認知度が上がってくれたら良いなという思いで、投稿させていただきます。

私は長崎医療センターに 2006 年から 2013 年まで診療情報管理士として勤務させて頂きました。診療情報管理士と聞いて、何をしている職種なのかご存知でしょうか。私自身、診療情報管理士の資格を取得して 20 年が経過しましたが、病院に就職するまで全く知らない職業でした。

はじめに、診療情報管理士について少し述べたいと思います。

日本病院会から 1972 年より“診療録管理士”の育成が始まり、1996 年に“診療情報管理士”という名称変更となりました。認定資格であり、未だ国家資格ではありません。

主な仕事は、その名の如く『診療情報の管理』です。一昔前では紙の診療録でしたので、診療録の貸出管理をする図書館司書的な役割を担いつつ、また、診療録監査を行い、記録の修正を求め精度向上に努めたり、診療録から読み取れるデータをコード化してデータベースを作り、統計を取る等がメインの業務でした。今では多くの医療情報がデジタル化されています。たくさんの施設で電子カルテが導入され、膨大なデータを扱うようになり、診療録管理に止まらず、診療情報の収集、分析、加工ができる、かつ経営にも参画する診療情報管理士『以下、管理士』へと業務が多岐に渡っています。

ここからは、私が今まで管理士としてたくさんの学びを与えて下さった 3 名の先生方との関わりを振り返りたいと思います。

私が管理士を取得したきっかけは、廣田先生との出会いでした。当時は就職氷河期真っ只中。音楽教師という夢を半ばあきらめ、全く経験がない畑違いの医療機関に医療秘書として勤務することになりました。

管理士としての初仕事は、廣田先生の診察に付かせて頂くことからでした。先生の隣で患者さんとの会話をパソコンで打ち、患者さんが退出後に SOAP 形式でまとめると言った、今では医師事務作業補助者がやっているような業務から始めました。医療初心者である私には、見るもの全てが新鮮で、とても興味深く学びが多い時間でした。

次に管理士として、より深く診療情報管理業務を追究させて頂く機会を与えて下さいました、長崎医療センターの当時、診療情報管理室長の心臓血管外科医長である濱脇正好先生、そして、当時の副院長の中原賢一先生には診療情報管理部門に対しては、たくさんのご指導、支援をして頂きました。

管理士業務のベースである診療録監査については、特に診療部トップの協力が必要不可欠です。診療情報の精緻化を図るために、適切にかつ迅速に指摘し、組織横断的に容易な連絡調整が必要となります。

長崎医療センターという立派な組織でも、入職当時は管理士の配置も少数で、DPC 対象病院として走り出したばかり。現場は多忙を極めていて、他部門にはその存在すらよく知られていませんでした。中原副院長先生からも『診療情報管理室がどのような仕事をやっているのか、他部門はブラックボックス的印象なので、やっていることを表に出せたら』と。私たち管理士は縁の下の力持ち的な役割で、淡々と点検業務をこなすことが仕事なのだと思っていましたが、日々の頑張りや成果をアピールする事で業務への理解が深まるんだと少し視点を変えるきっかけとなり、診療情報管理部門の活躍の場を与えて下さいました。

当時、診療情報管理室長であった濱脇先生には、診療情報管理部門を確立すべく、毎週の早朝ミーティング、継続的な業務改善、他部門との調整、学会発表への取り組みなど常に診療情報管理室に寄り添って頂きました。その上、濱脇先生自ら診療情報管理士の資格まで取得して頂いて、とても心強い味方でした。

また、長崎県診療情報管理研究会発足には、お二人の先生方のご尽力無しでは今はありません。現在も継続して尽力いただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

日本診療情報管理学会のホームページにも掲載がありますが、診療情報管理士業務指針が示されています。見ていただくと分かりますが、前述のように、管理士は、診療録管理から膨大な情報を扱う業務へと多岐に渡り、医療の質と安全性の門番的な役割を担っています。正確なデータを保管管理するための最後の砦といっても過言ではありません。

最終的には患者さんのために還元する情報を提供する。文章にすると情報提供まで簡単に見えてしましますが、病院内でも診療情報はあちらこちらにデータが散らばっており、一元管理するのは容易ではありません。その情報を精査し、利用者が求めている情報は何なのかを吟味し提供する。診療情報管理士が最も求められていることだと思っています。

とはいえ、まだまだ高い目標と理想を追いかけている真っ最中です。現在は、福岡東医療センターへ異動となり、病院機能評価受審へ向けて日々奮闘中です。診療情報管理は多部門、多職種と関わることが多い部門です。部門と部門、職種と職種を繋ぐ役割も担っているなど感じています。良い潤滑油的な役割となっていればとても幸いです。